

Life Design Magazine

山・海暮らしの達人に学ぶ、本気の移住計画!

# BRUTUS Casa

ツリーハウス、作っちゃえ

週末だけ?  
移住しちゃう?

## 森へ、海へ! みんなの移住計画。

新しい暮らしを見つけてみませんか。

11

2011 vol.140  
NOVEMBER  
定価 880円

ますます大人気、ハンバーガーはご馳走です。  
山や海を感じるアウトドアインテリア&グッズ。



壁飾組子 (伊村比呂/中村木工所)

加工が難しいとされるカラマツ材は、本加工で最高級の「組子」で日本人、異国に地帯の縁を飾り合わせた長寿の飾物の中興に際し、伝統的な装束が新たな美を育む。



馬籠 ma-bitsu (渡邊 剛)

伝統的な馬籠を器用に織り交ぜながら、機能に、意匠に、そしてやさしいアーチ状で、腰の心地よい室内ベンチも兼ねる。高さ150mm、前後が低い半椅子にも立ち寄りやすい。



木箱 (橋本 典)

370×740mmの木箱は、2つ組で天板を渡せばデスクとなり、1対2の比率なので簡単に自由にキッチンと組みあわせが可能で、使い手のアイデア次第で多様な家具へと変換する。



Fault of wood (大宮 雄之介)

作品名を直訳すれば「木の欠点」。燃える、割れる、歪むなどの欠点を自然素材ゆえの長所と捉え、木を想ひし直すことで造作、修復である意匠として上げ、器として用を成す。

【木のデザイン】公募展2011

～2011年11月24日、★《協田美術館》表野橋 軽井沢町 軽井沢370-4205、10時～17時、日曜中絶 (観覧料なし、イベント等における観覧料あり)、入場料200円、日本の現代美術界を代表する協田氏の設計、展示、展示場の運営する美術館。アートプロジェクトも活動に展開し、本プロジェクトもその一環。「展覧会年報 協田美術館」展覧中。

photo: Shirokouchu-sha

(左:協田) 1959年 展覧: 木と人+1

示す上の写真は代表的な作品だが、ステイションナリに家具、室内装飾品、器と、用途や技法はさまざまだが、デザインは森林や自然環境に好む、それらの環境を巧みに活用して、見る人の環境意識への意識を喚起する、他の13作品も、またしかりである。

軽井沢カラマツが多彩な美を奏する様子から、日本人は「木の文明」を受け継ぎ、木の恵みに育ちながら民衆的な美意識、自然の愛し、自然の暮らし、森林の暮らし、より強く、なると、



カラマツ林の色えんぴつ (鈴木 洋一郎)

カラマツを模した12色の色鉛筆と組立て、削削りとのセット、削削り立てると、紙の上カラマツ林ができる仕組み。削削り立てると、紙の上カラマツ林ができる仕組み。削削り立てると、紙の上カラマツ林ができる仕組み。

か、この展覧会を通じて、木と人間の関係について、改めて考えさせられる。展覧会を通じて、木と人間の関係について、改めて考えさせられる。展覧会を通じて、木と人間の関係について、改めて考えさせられる。

◆森林のこれからを考える。  
軽井沢・協田美術館の『木のデザイン』展へ。  
展覧会を通じて、木と人間の関係について、改めて考えさせられる。展覧会を通じて、木と人間の関係について、改めて考えさせられる。